

第3回 奈良県河川整備委員会 議事概要

1. 日 時 平成13年5月24日(木)
2. 場 所 商工会議所 4F中ホール
3. 出席者 委 員(敬称略) 池淵周一、澤井健二、木村 優、御勢久右衛門
近江昌司、荻野芳彦、北口照美、榊原和彦、伊藤章子
奈良県 土木部次長(技術)、河川課長、 ほか
4. 議 事
 - (1) 生駒いかるが圏域治水計画について
 - 1) 治水計画について参考資料で説明
 - 2) 各河川の治水計画について説明
 - 各委員から次の事項に関して意見があった
 - ・一般に公表するのであればできるだけ凡例を正確につけた方が理解されやすい。
→細かくチェックし、一般の方が見たときもどういう考えで治水計画をまとめているかがわかるよう工夫する。
 - ・浸水する地域を公表すればよい。
→浸水実績図を公表しているが、説明不足であるので今後いろいろな形で情報発信していきたい。
 - ・この計画を実施するのに個々の計画にいくらかかるという積み上げはできないか。
→法定計画により予算を縛るよりも、コスト縮減に取り組んでいきたい。
 - ・10年確率で流したとき大和川本川もこれを上回ることはないのですね。
→上流にダムを造ったり、ため池を治水に使うことにより積極的に貯めていく事業をしながら、河川を拓げるのは10年確率で行っている。
 - ・川に親しむということから、堤防を高くしない方がよい。
→できるだけ堀込み河道で対応したい。大和川合流部について堤防が高くなるのはやむを得ない。
 - ・暫定計画から長期計画の改修をする場合手戻りとならないよう検討。
→長期計画の断面を視野に入れて暫定計画の断面を決定しているため、用地買収の点では手戻りは生じない。
 - ・部分的に河道内貯留を設けることにより安全度を上げられないのか。
→大和川流域の公平性も考慮しなければならないが、用地があれば検討していきたい。
 - ・地域方々、学校教育の現場にもいろいろ情報発信すればよい。
→情報発信をしっかりとやっていきたい。それで議論していただければと思う。

(2) 生駒いかるが圏域環境整備について

- 1) 環境整備について参考資料で説明
- 2) 竜田川の環境整備について説明

○各委員から次の事項に関して意見があった

- ・環境の理念の中で、「水のきれいな川づくり」を一番最初にした方がよい。
 - ・「やさしい」という曖昧な言葉は使用しない方がよい。
 - ・「地域に愛される川をめざして」とすれば、川中心で地域が出てこない。
- 検討する。

- ・水辺、水際へのアクセスの難易性について資料に追記してください。
- 追記する。

(3) 意見集約

1) 治水計画について

- ・積極的に情報発信を行い、地域住民の方々に多くの情報を提供する。
- ・ため池等の貯留施設の設置を積極的に行う。
- ・治水計画については、概ね了解する。

2) 環境整備について

- ・水辺、水際へのアクセスの検討が必要である。
- ・次回、各河川の環境整備について討議する。